

平成元年度全国デジタル道路地図 データベースの整備進む

全国デジタル道路地図データベースの整備は、昨年9月の計画部会でとりまとめられた「当面のデータベース構築計画」(表1)に基づいて行われていますが、今年度のデータベースについて、このほど作成作業に着手しました。

今年度のデータベース整備は次のとおり進められます。

①人口20万人以上の都市の地域(1/25,000地形図でデータベースの作成を行う地域)について、全道路(※1)ノードデータと全道路リンクデータを新たに整備します。

②昨年度に整備された基本道路(※2)ノードデータに、都道府県道以上の道路について道路管理者から提供を受けた交差点名称等のデータを追加します。

③基本道路リンクデータに、都道府県道以上の道路について道路管理者から提供を受けた車両重量制限有無コード、12時間交通量等のデータを追加します。

④基本道路について、橋(延長100m以上)、トンネル、アンダーパス等のリンク内属性データを追加します。

⑤昨年度整備した都道府県庁、大きな鉄道駅等の施設等位置データに加えて、小さな鉄道駅、サービスエリア、パーキングエリア、駐車場(大きなもの)、空港、フェリー発着所、公園・緑地、レクリエーション施設等のデータを整備します。また、小さな鉄道駅、空港等の施設等形状データを作成します。

⑥昨年度整備の市区町村名と道路名のデータに加えて、今年度は地名(大字名等)、島名、水系名、山岳名等の地名等表示位置データを整備します。

なお、今年度のデータベースの作成に先立って、6月23日と9月6日に標準化ワーキンググループ(主査:建設省土木研究所神崎紘郎道路交通総括研究官)の会議が開催され、標準の改定が検討されました。

標準の主な改定点は次のとおりです。

①全道路ノードのノード番号について、基本道路上にある全道路の取扱に関する取決めを加える。

②全道路リンクデータに「対応基本道路リンク番号」及び「行政区域コード」を追加する。

③新たに「基本道路リンク・全道路リンク対応データ」を設ける。

④基本道路リンクデータに「一般国道・指定区間コード」を加える。

⑤基本道路リンク内属性データの属性種別等を一部変更する。

⑥施設等位置データに、その施設へのアクセスの情報として「隣接基本道路ノード」、「隣接基本道路リンク」、「隣接方向コード」等のデータを加える。

⑦地名等表示位置データの内「地名」の採択基準を「1/200,000地勢図に記載されているもの及び道路管理上必要なもの」に改める。

なお、まだ仮コードとなっている「施設等種別コード」等、いくつかの未解決の問題について今後検討を加えることにしています。

※1、※2「全道路」「基本道路」の定義については、本誌8P用語集をご参照下さい。

表1. デジタル道路地図データベース構築計画('89~ '90年度)
(出典 協会ニュース第1号5頁)

年度	地形図	範 囲	面数	内 容
'88	1/2.5万	人口20万人以上の都市の地域	462面	一般都道府県道以上・5.5 ㍍以上の道路 約28.8万km (ノード・リンク)スケルトン
	1/5万	その他の地域 計	1,126面 1,588面	
'89	1/2.5万	'88年度整備分の属性データ追加		一般都道府県道以上・5.5 ㍍以上の道路(ノード・リンク)属性データ追加
		人口20万人以上の都市の地域 (面数10%, 人口46%)	462面	一般都道府県道以上・3.0 ㍍以上の道路 (ノード・リンク)スケルトン
'90	1/2.5万	人口10万人以上の都市の地域	454面	一般都道府県道以上・3.0 ㍍以上の道路 (ノード・リンク)スケルトン
(1/2.5万地形図の範囲 '89・'90年度計 面数21%,人口58%) (残 3,513面)				

(注) _____は86年図式より前の図式では幅員2.5 ㍍

データベースの提供を開始

協会ニュース第2号に掲載しましたように、3月末、賛助会員各社に対して、データベース運用部会で審議されたデータベース提供の考え方と提供料金をご案内しました。

その結果、全国版8社、地方版3社（うち関東版1社、近畿版2社）の申込を頂き、データベースを収録した磁気テープを発送しました。この11社では、データベースを、自動車のナビゲーション、移動体管理あるいは道路管理などのシステムへの組み込み、パソコン等で地図データを読み出す電子地図などに利用することが計画されております。

昭和63年度版データベース提供先

会社名	部署	担当	住所・電話
日産自動車	電子設計部電子開発課	富山頼二	厚木市岡津古久560-2 ☎0462-47-5523
本田技研工業	栃木研究所	後藤 博	栃木県芳賀郡芳賀町 大字下高根沢4630 ☎0286-77-3311
トヨタ自動車	電子技術部第3電子室	河村敬秀	豊田市トヨタ町1 ☎0565-28-2121
マツダ	エレクトロニクス推進部	小林一夫	広島県安芸郡府中町新地3-1 ☎082-282-1111
日本電装	エレクトロニクス開発部	黒瀬義雄	刈谷市昭和町1-1 ☎0566-25-7825
住友電気工業	システム企画部企画室	熊谷靖彦	東京都港区元赤坂1-3-12 ☎03-423-5643
パイオニア	カーエレクトロニクス 事業部事業推進室	押見守啓	東京都目黒区目黒1-4-1 ☎03-495-6104
日本電気ホームエレクトロニクス	開発研究所第2開発部	小野 治	川崎市高津区久本262 ☎044-877-4111
三菱電機	自動車機器事業部業務部	竹内健治	東京都千代田区丸の内2-2-3 ☎03-218-2837
日産製作所	カーオーディオ ビジュアル工場部	柴田孝則	勝田市大字稲田1410 ☎0292-73-1111
松下電器産業	国際インダストリー 営業本部営業三部	関根茂雄	東京都港区芝公園1-1-2 ☎03-459-9735

その後、協会では、データベースの普及と活用を計るための諸活動に力を注いでおります。7月末には、データベース提供先の各社に出席をお願いして、第1回データベース研修会を開催しました。昭和63年度データベースの検収結果や問題点についての情報交換やナビゲーション用CD-ROMのフォーマットの自動車会社間の互換性等についての意見交換などを行いました。9月上旬には、システム組み込みの場合等のロイヤリティの検討を始めました。

また、7月から8月にかけて、今後提供が予想される電気関係などの23社にはアンケートを、地図関係の9社には協会役員との懇談を各々お願いしました。

こうした検討の結果とご意見により、会員各社がデータベースを各々ご利用いただけるような新しい局面の展開を期待しております。

第3回理事会開催さる

—昭和63年度事業報告及び収支決算承認さる

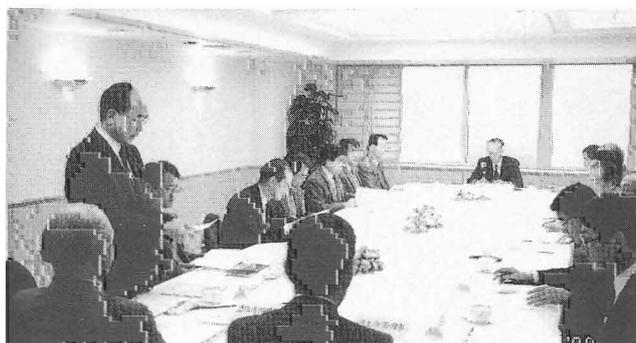
第3回理事会が、平成元年5月23日、ホテルニューオータニ本館雲海の間において理事全員の出席（委任状出席を含む）を得て開催されました。

議事は、第1号議案 昭和63年度事業報告及び収支決算について、第2号議案 役員を選任について、第3号議案 長期借入金の借入についての3議案について審議されました。

第1号議案については、井上常務理事から説明があったのち、吉田監事から「昭和63年度事業報告書、収支決算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録等を監査した結果、何れも正確妥当なものと認める」旨の監査報告が行われました。次いで、審議に入り承認の可否について諮ったところ、全員異議なく、原案どおり可決承認されました。

第2号議案である次期（平成元年6月1日より平成3年5月31日）の理事及び監事を選任について、全員異議なく次の通り選任されました。

役職	氏名	現職
理事（非常勤）	尾之内 由紀夫	理事長
理事（常勤）	上條 俊一郎	専務理事
理事（常勤）	井上 和夫	常務理事
理事（非常勤）	井上 輝一	トヨタ自動車株式会社取締役東京支社副社長
同	岡本 恒雄	松下通信工業株式会社常務取締役
同	金窪 敏知	財団法人日本地図センター常務理事
同	川手 士郎	株式会社日立製作所常務取締役営業本部長
同	清水 博	財団法人道路新産業開発機構常務理事
同	永利 植美	日本電気株式会社取締役支配人
同	真野 温	住友電気工業株式会社取締役副社長
同	丸茂 長幸	日産自動車株式会社専務取締役
同	光山 勝	マツダ株式会社常務取締役技術開発本部長
同	宮原 克典	財団法人日本建設情報総合センター理事
同	村山 正雄	日本電装株式会社専務取締役
同	山田 建己	本田技研工業株式会社取締役
監事（非常勤）	横井 士郎	株式会社日本長期信用銀行取締役産業調査部長
同	吉田 春樹	株式会社日本興行銀行取締役産業調査部長



また、役職理事（理事長、専務理事、常務理事）の互選について諮ったところ、全員異議なく、現理事長、専務理事及び常務理事が再任されました。

第3号議案については、井上常務理事から、平成元年度に長期借入金を予算の範囲内で道路開発資金から借入することについて説明があり、全員異議なく承認し、その具体的な取り扱いについては、理事長に一任することとされました。

Topics

■協会設立1周年を迎える

当協会は、官民一体となって道路網及び道路地図に関する数値情報の調査研究並びにその収集提供等を行うことにより、道路及び道路交通の情報化に貢献することを目的として、建設大臣のご許可を得て、昨年8月8日に設立されましたが、このたび1周年を迎えることができました。

この間全国デジタル道路地図データベースの整備を鋭意進めてまいりましたが、建設省ご当局のご指導を始め賛助会員の皆様方の多大なご支援及びご協力を得て、所期の計画どおりデータベースを建設省各地方建設局等へ納入するとともに利用申し込みのあった賛助会員各社にも提供することができました。

今後は、さらにデータベースの内容の高度化を図りその充実を期してゆくとともに、データベース利用について各方面の研究検討をいただき、さらに精緻なもの、必要な情報が盛り込まれたものにしていかなければなりません。今後とも、一層のご指導ご叱声に併せ、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

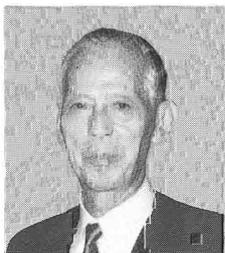
なお、協会設立1周年を迎えるにあたり、日頃ご指



導いただいております建設省ご当局、作成にあたった地図、測量関係の各社、理事会社の方々にお集まりいただき、ささやかなご披露の場を設けさせていただきました。お世話になった大勢の方にお出掛けいただきたかったのですが、協会の事務室という狭隘な場所柄、限られた方々にさせていただきましたことをお詫び申し上げます。

1周年記念披露での尾之内理事長あいさつ（要旨）

1989年8月7日 於協会事務室



本日は、皆様方お暑いところ、またご多忙の折りにもかかわらず関係各方面から多数の方々のご来臨を賜り、誠にありがとうございます。

ご高承のとおり当協会は昨年8月8日、道路網及び道路地図に関する数値情報の調査研究並びにその収集提供等を行うことにより、道路及び道路交通の情報化に貢献することを目的として、建設大臣のご許可を得て設立されました。

本日をもちまして満一年を迎えたところでございますが、この間当協会は、その目的であります全国デジタル道路地図データベースの整備を鋭意進めてまいり、皆様方大変なご協力によりまして、予定通り円滑に進行していることを厚く御礼申し上げます次第であります。

このデータベースの作成作業は、何分にも初めての仕事でございましたが、皆様方始め関係の方々のご協力によりまして所期の計画どおりデータベースを各地方建設局に納入し、また、賛助会員各社に提供を開始することができました。

短期日にここまで到達いたしましたことは、関係の方々のご協力の賜物でもあり、とくに本日、データベースの作成作業に従事いただきました16社2団体に対しまして、ささやかながら感謝の意を表したところであります。

協会といたしましては、今後さらにデータベースの内容の高度化を図りその充実を期していくとともに、データベースのご利用について各方面にご研究、ご検討いただきましてご示唆を賜り、さらに正確なもの、必要な情報が盛り込まれたものとする所存であります。

正にこれからが私どもの仕事であると認識しておりますので、引続き建設省ご当局並びに、ご列席の皆様方を始め各方面のご理解とご支援をお願いするものであります。

■昭和63年度版データベースの作成に係わった会社, 関連団体に感謝状を贈呈

全国デジタル道路地図データベース（昭和63年度版）は平成元年3月31日より賛助会員各社に提供を開始することができましたが、このデータベースの作成にあたった地図測量会社および検査、管理業務等で協力いただいた関連団体等18社、団体に対し、協会の設立1周年にあたり協会から感謝状を贈呈いたしました。

贈呈は8月7日（日）17時30分から当協会・会議室で行われ、尾之内理事長から短い作成期間のなかでデータベースの完成に功績のあった各社、各団体に謝意が述べられたあと、各社、団体の代表者に対し手渡されました。

感謝状贈呈の各社各団体

朝日航洋株	内外地図株
アジア航測株	株バスコ
国際航業株	株武揚堂
国土地図株	北海道地図株
昇寿チャート株	緑川地図印刷株
株昭文社	和楽路屋株
株ゼンリン	株日本建設情報総合センター
中央地図株	株日本地図センター
東京カートグラフィック株	株日立製作所

代表者謝辞（緑川地図印刷株式会社）

代表取締役 緑川良一

このたび貴協会におかれましては、めでたく設立一周年を迎えられましたことはまことに喜ばしいことと心からお祝い申し上げます。

また本日は、ご鄭重なる感謝状を賜り身にあまる光栄と厚く御礼を申し上げます。

高度情報化社会の到来に伴う道路情報の処理、提供に欠かせないものとして強く求められていた全国デジタル道路地図データベースが、かくも短期間に統一された規格と精度で全国整備されましたことは、画期的なことであり、まことに意義深いことと存じます。

私達作成会社といたしましても、この歴史的な事業に参画できましたことを感謝すると共に、大いに誇りとするところであります。

今後は、尚一層の技術の錬磨を計り、高精度の成果を提供すべく懸命の努力を尽くす覚悟でございます。

参加会社を代表いたしまして、厚く御礼を申し上げますと共に今後共よろしくご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



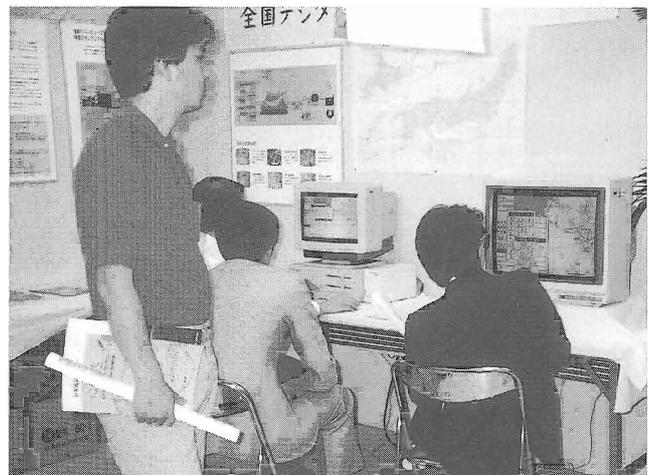
■地図展'89 大阪に出展

建設省において今年制定された「測量の日」（6月3日）のイベントの一環として、そごう大阪店で、6月10日（土）より14日（水）まで「地図展'89大阪」が開催されました。

この地図展は、毎年開催されているもので、今年は、地図で見る大阪の移り変わり・身近な地図のいろいろが紹介されました。

当協会は、最新の地図作成技術を紹介するコーナーに「昭和63年度全国デジタル道路地図データベース」を展示しました。

当協会では、見学者が、実際に、パソコンのマウスを操作し、任意の場所を検索、拡大、縮小、スクロールなどを行ってデジタルマップを楽しく体感できるように工夫しました。見学者からは、「データベースの更新、容量、用途は」、「ソフトは何処で売っているのか」、「データの収納は」、「ソフトはどのパソコン機種にも合うのか」等々の質問が集まり、反響の高さを示しました。



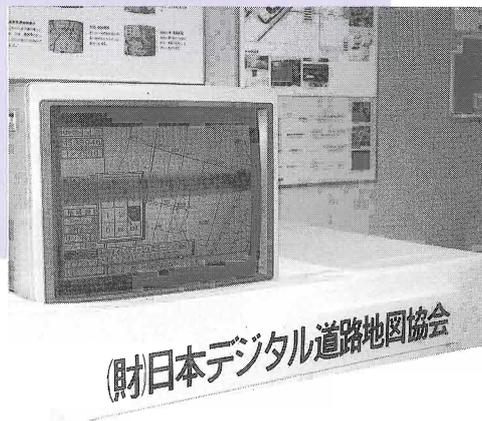
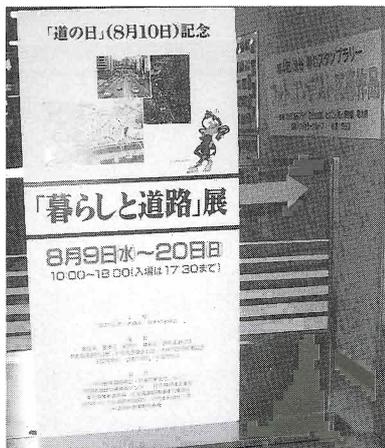
■日本国際地図学会で発表

日本国際地図学会・平成元年度定期大会が、8月2日、3日の両日にわたり茨城県つくば市の科学技術庁研究交流センターにおいて開催され、当協会から全国デジタル道路地図データベースについて発表しました。

(発表者：情報管理部長 奥村晃三)

本大会には、地図作成・地図利用技術等について、建設省国土地理院、海上保安庁水路部や地図・測量会社の関係者及び中・高校、大学の先生等からも多くの発表がありました。地図作成技術のテーマでの発表はコンピュータマッピング関連のものが多く、この分野の研究が着々と進みつつあることを示していました。当協会では、本発表を契機に、データベースの作成、更新について、積極的に新しい技術を導入して省力化、効率化を図る一方、さらに、使いやすいデータベースとするための調査、研究を進めて行く所存です。

■「道の日」に協賛「暮らしと道路」展に出展



「道の日」(8月10日)を記念して、「道の日」実行委員会(実行委員長 尾之内由紀夫)と日本放送協会の主催で「暮らしと道路」展が8月9日(火)より20日(日)までNHKギャラリー(NHK展示プラ

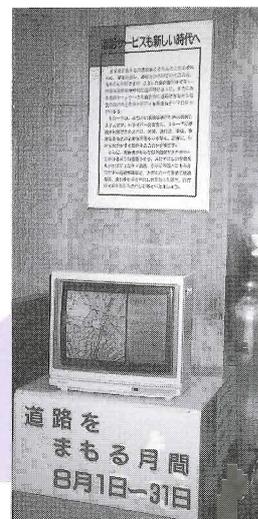
ザ内)において開催されました。

当協会では、これに協賛して、昨年度完成した「全国デジタル道路地図データベース」の一部を、音声ガイダンス機能を備えたオートデモシステムにより紹介いたしました。

夏休み期間中ということもあり、家族づれを中心に会期中8万人余りの人が見学に集まりました。

■建設省ロビーに簡易表示システムを展示

道路をまもる月間(8月1日~8月31日・「道の日」実行委員会)の一環として、当協会では、8月24日から8月31日までの1週間、建設省・本省1階のロビーに簡易表示システムを展示し、道路地図データベースの概要を紹介いたしました。



■国際学会(VNIS'89)で論文発表

当協会は、9月11日から13日までカナダ・トロント市で開催されたVNIS'89(Vehicle Navigation & Information System)に参加するため、論文を提出(論文名“Digital Road Map Data Base for Vehicle Navigation and Road Information Systems”, 論文提出者名:上條俊一郎・奥村晃三・北村明直)、このほど受理されました。VNIS'89は、IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers Inc.)主催の国際会議で、論文は、9月13日にデジタル道路地図のセッションで発表されました。ナビゲーションや道路管理といった実用を前提に、統一した規格で全国を一挙に整備したデータベースは、世界的にも前例が見当たらないだけに、斯界の注目を集めるものと思われます。

デジタル地図分野に期待する

地形図の図形を電子計算機の記憶媒体に記述する業務が始まったのが昭和48年。以来十有余年、この間には、図形計測機器を含む電子機器並びに、その利用ソフトの開発等、技術革新にはめざましいものがある。一方、急速に進展する情報化社会への動きは、デジタル地理情報整備への動きとなり、日進月歩の新技術の修得や、新しい情報整備への対応に追われることが多い。

話題の主なる地図は、作成の目的、その使命に沿い、地表の多くの事象をできるだけ鮮明に地理的イメージを浮かび上がらせるよう、正確・精密に、時には誇張・省略・整形など前者とは相入れない手法をも併用し、かつ実利性や美的要素をも加味し、図形・記号・注記からなる諸要素の相互の調和が取れた記述素材で地図のイメージを形成している。

この地図の内容を特定項目毎の個別情報として数値化しようとする、諸々の要素を集大成するため用いられた表現上のテクニック即ち、誇張・省略・

整形等のデフォルメ化は、有意性を欠くものとし、内容によっては原図形等原図の補修処理が必要となることであろう。また、項目相互間で形状等を補完し合っただけのイメージを形成している事項では、何れか一方のデータの修復追記等の前処理が生じるケースもあるのではないだろうか。

数値化されたデータは、単一の項目あるいは、ある種の加工、演算処理により付加価値の高いデータに変換されたとしても、地理的情報であるならば、その結果を理解しやすい地図のイメージにして利用することになるであろう。とすると、これまでに培ってきた地図表現手法をベースに、電子計算機処理における地図表現手法に眼を向け、データ取得時における処理の問題と関連させ、永い歳月を経て集大成して来た地図業界の地図編図技術を駆使し、新しい技術がこの分野に定着することを期待する。

(財)日本地図センター情報研究部長 栗山 稔)

Information

★第18回日本道路会議で論文発表

当協会は、(財)日本道路協会主催の日本道路会議(会期:平成元年10月24日(火)~27日(金)、場所:サンケイ会館(東京都千代田区大手町))において、論文発表をすることになりました。

論文題目:全国デジタル道路地図データベースの整備
発表者:飯野 宏(共同執筆:上條 俊一郎、北村 明直)

★英文パンフレット「JAPAN DIGITAL ROAD MAP DATA BASE」を作成

昨今、電子地図の利用が、世界的な拡がりを見せておりますが、当協会ではこのほどデジタル道路地図データベースを解説した4頁からなる英文のパンフレットを作成しました。必要な方は、事務局までご連絡下さい。

★NHK教育テレビで放映の予定

NHK教育テレビで当協会のデータベースの一部が紹介されることになりました。

放映日:10月5日(木)午後12時20分から40分まで。

番組名:レッスンコンピュータ

ディレクター:杉本勝久氏(NHK学校教育部)

★親しまれるロゴマークをお寄せ下さい 協会ロゴマーク募集

(財)日本デジタル道路地図協会或いは、「全国デジタル道路地図データベース」を明るくイメージするロゴマークをお寄せ下さい。

宛先 当協会 総務部総務課

形式 自由

締切 1989年11月15日

採用させていただいた分には、協会ニュースに掲載し発表するほか、当協会のデータベース、出版物等に継続的に使用させていただきます。

2次メッシュ

昭和48年行政管理庁告示 148号で定められた標準地域メッシュ。標準地域メッシュコードにおけるメッシュ単位のひとつ。

日本全国の南北を緯度方向に40分、東西を経度方向に1度の間隔で区切る。これを1次メッシュ（国土地理院発行の1/200,000地勢図に相当）と称し、この1次メッシュを東西、南北それぞれ8等分してできる地域区画を2次メッシュと称し、6桁のコード番号を持つ。

2次メッシュの区画は、原則として国土地理院発行の1/25,000地形図の図葉に相当し、大きさは約10km²×10km²である。1/25,000地形図は現在4,430面で日本全国をカバーするが、地形図には表現上延伸図、挿入図、偏図があり2次メッシュ区画に相当していない図葉もある。このため、全国デジタル道路地図データベース（昭和63年度版）は、1/25,000地形図発行枚数より多い4,713のメッシュで構成されている。

ノード

ネットワーク構造上の結節点。全国デジタル道路地図データベースでは、道路をネットワーク構造としてとらえ、次の地点にノードを設定している。

- ①交差点
- ②行き止まり点
- ③道路と2次メッシュ区画の交点
- ④道路属性の変化する地点（県境等）
- ⑤ネットワーク表現上便宜的に設定する点（ダミー点）

リンク

ノードとノードを結ぶ線分。全国デジタル道路地図データベースでは、道路をリンクとして扱っている。リンクの形状は道路中心線上に適宜設定する補間点の列で表現する。

リンク属性

当該リンクに関する各種の情報。そのリンクの道路種別、道路管理者、路線番号、有料道路区分、自動車専用道路区分、行政区域コード等。

基本道路リンク内属性データ

全国デジタル道路地図データベースでは、基本道路の上にある、橋梁、トンネル、料金所等の道路に付随

する各種の施設を基本道路リンク内属性と呼んでいる。これに関するデータを整理し、格納するのが基本道路リンク内属性データである。

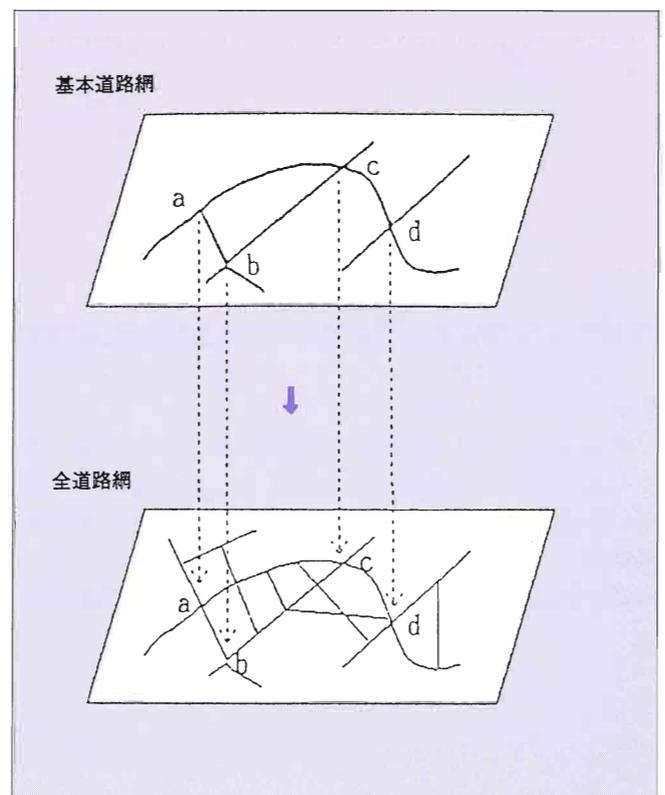
このデータには、道路通称名、アンダーパスといった施設構造物以外のデータも格納できる。

背景データ

全国デジタル道路地図データベースにおいては、道路を表示したり、道路を利用する上で便利な背景となるデータをいう。これらは次の6つに分類される。

- ①水系データ（海岸線、河川、湖沼の位置に関するデータ）
- ②行政界位置データ（都道府県界、市町村界の位置に関するデータ）
- ③鉄道位置データ（鉄道の位置に関するデータで、鉄道種別、地下部分なども持つ）
- ④施設等位置データ（道路利用上、必要な施設の位置、種別、名称等に関するデータ）
- ⑤施設等形状データ（施設等位置データで採択した施設の内、地形図上にその形状が図示されているものの位置・形状に関するデータ）
- ⑥地名等表示位置データ（地名、行政名、道路名等名称に関するデータ）

図1 基本道路網と全道路網



基本道路網と全道路網

全国デジタル道路地図データベースでは、道路網を基本道路網と全道路網のふたつの網（ネットワーク）に分け、それぞれ管理している（図1参照）。これは

用途に応じた利用を可能にするためである。また、これらの網を構成する道路を、基本道路、全道路という。

	基本道路網	全道路網
構成道路	高速自動車国道 都市高速道路 一般国道 主要地方道 一般県道 及び 車道幅員が5.5m(2車線)以上のその他の道路（市町村道等） なお、これらの道路を連結する道路（ランプ等）も含む。	基本道路網の構成道路及び 車道幅員が3.0m(1車線)の道路
特徴	対象道路の総延長は短いですが、それぞれの道路に関し、豊富な属性情報を持つ（例：路線番号、自動車専用道路区分、有料道路区分等）	道路の属性情報は少ないが、幅員の狭い道路を含め、道路のネットワーク形状情報を豊富に持つ
主要用途	<ul style="list-style-type: none"> ・最適経路選択 ・各種ドライバー案内（道路交通情報の提供等） ・道路行政 	<ul style="list-style-type: none"> ・マップマッチング ・詳細部の拡大ディスプレイ表示

〔参照図書〕

地図用語辞典（日本国際地図学会編）

国土数値情報の概要（建設省 国土地理院）

編集後記

・本号では今年度のデータベースの整備状況についてお知らせすることができました。

昨年度は、多くの方々的一致協力によって全国一律の基準でデータの整備ができました。今年度は、全道路網の整備、属性データ、背景データの整備、基本道路網データの更新と、複雑、多岐なものとなり一層の困難が予想されます。困難である分、内容の充実した

魅力的なデータベースとなるわけですが、昨年度にも勝る皆さま方のご支援、ご協力を必要としております。よろしくごお願い申し上げます。

・本号から、趣向をかえて、連載随想とデジタル道路地図用語集をお届けしてまいります。

いささかでも親しみのある誌面になることを願っております。皆さまのご意見、ご希望をお寄せ下さい。

(w)